

東北応援ツアーレポート

B 宮城県コース 72 年文学部卒業 古山良茂

「現地を訪問して想うこと」

まず第一に、立命館大学校友会の結束の堅さに誇りと勇気を・得たことである。それはまだ学生のような実行委員(山口君と藤井さん)にコーディネートしていただき、参加者にも若い女性が多く、校友の絆とたくましさに対し、頼もしさを感じたからである。第二に、勉強会で(株)「木の屋石巻水産」社長木村氏の話に感動したことである。大震災に遭い、何度か廃業が脳裏をよぎる中、再開にこぎつけられた決断に心より敬意を示すものである。第三に、被災地のシンボル“南三陸町の防災対策庁舎”における戦慄である。職務に専念し最期までマイクを離・さず、結婚を目前にしながら命を奪われた若い女性の無念さは、筆青に尽くしがたく、心から冥福を祈った次第である。

なお、帰途に見学させていただいた(株)「ささ圭」の笹かまぼこの味と、社長佐々木夫妻のさわやかな笑顔は今でも忘れられない。

最後に、この応援ツアーをお世話をいただいた、校友会事務局の村上氏と宮城県校友会等関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。